

地質－1 おすずようけつぎょうかいがん 尾鈴溶結凝灰岩



火山の巨大な噴火で発生した大規模な火砕流^{かさいりゅう}は、流動性^{たいせき}が大きい^{たいせき}ため、谷や低い平坦地に厚く堆積します。堆積した火砕流堆積物は火山灰や軽石、溶岩片、周囲から取り込んだ岩片などを多く含みます^{あつみつ}。堆積した直後は高温と堆積物自身の重みによる圧密により、火山灰や溶岩片（黒曜石）の一部が融けて固まり溶結凝灰岩となります。尾鈴山酸性^{おすずやまさんせい}岩類の大部分を占める尾鈴溶結凝灰岩は、約1400万年前の日向市細島沖にあった火山の巨大噴火により生じた火砕流堆積物が溶結したものです。尾鈴溶結凝灰岩に含まれる黒曜石レンズは長い年月の間に脱ガラス化し白くなっているのが特徴です。この溶結凝灰岩が冷える過程で収縮し、割

れ目を生じて見事な柱状節理^{ちゅうじょうせつり}をつくりました。